

「であい・ふれあい・まなびあい」から  
「つながりあい・ささえあい」へ

# おおっ! おおっ! おおっ! おおか! 再発見 大岡集楽学校



## 四ヶ村コース概略

- 支所前バス受付 ① 高市場の子安観音  
二十一夜塔などの石碑群
- ② 北小松尾の西蓮寺跡や庚申塔
- ③ 小松尾城ミニ登山と住吉社
- 昼食 四ヶ村地区センター  
四ヶ村の方による協力
- ④ 上栗尾の道祖神や石仏と眺望
- ⑤ 下栗尾の天王社石祠、棚原秋葉社石祠
- ⑥ 講師のお話・座談  
四ヶ村地区センター

其之三  
**四ヶ村**  
しかむら  
平成27年  
**9/23(祝)**

大岡全十区をフィールドに歩きながら考える『集楽学校』。第一回は中牧、そして第二回は五ヶ村でした。

「であい・ふれあい・まなびあい」から「つながりあい・ささえあい」へ、をテーマに、今年と来年で大岡を北から順に探訪していきます。各区をめぐりながら、地元の方からの説明や宮下先生の解説を交え、先人の声に耳を澄ませ、地域に伝えられた文化を掘り起こし 明日の「集楽」を皆で共に考えます。

主催／大岡住民自治協議会  
四ヶ村区

共催／長野市大岡支所  
大岡中学校・大岡小学校



聖山

# 1 高市場子安観音

(近くに二十三夜塔などの石塔群)

## 独自性のある大岡の「子安さま」

子安観音は、仏教の経軌に説かれたものではなく安産育児を祈願する民間の子安信仰から造作されたもので主に右膝を立てて児を抱く姿で表されます。大岡の各地区に4体ほど見られる子安観音は、ほぼすべて光背の無い丸彫り・膝を立てない座相で両腕右頭で児を抱く姿です。一般の像容は「子守明神像」や「慈母観音」「子安地藏」が由来とも云われます。また、奈良県の吉野水分神社では水資源とのかかわりで「みくまり」「みくもり」と呼ばれ、「子守明神」子授けの神として信仰を集めています。

## 近くに立派な尼僧墓碑

高市場の子安観音後ろのイチイ大木の元には「大法梅仙尼首座」と掘られた無縫塔があります。子安観音と設立年の違いがありそうですが、なんらかの関連性もあり建立されたのかもしれないと見られます。大岡の他の地区の子安像安置との関わりも注目されます。



## 高市場子安観音の特徴



●宝髻(ほうけい)  
菩薩像特有のもので、大岡の像は髪を左右にも垂らし女性らしい像容が特徴。奈良時代には位の高い女子の髪型。



菩薩の着衣

●座像  
(右脚を立てていない)

- ◀◇蓮座(れんざ)
- ◀◇敷茄子(しきなす)
- ◀◇反花(かえりばな)

●台座(だいざ)

ていねいな台座が施されている。



## 健やかな成長を願う大岡は子育ての聖地

村には必ず道傍らの見守り隊!



## ◎高市場石造物群

「二十三夜塔」「庚申塔」「馬頭観音」「道祖神」など  
※二十三夜塔解説は6~7p



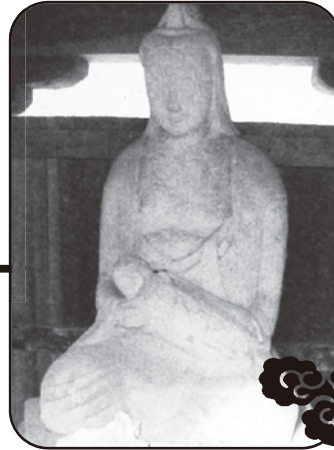
## ◎巡礼供養塔

西国・坂東・秩父  
子安観音隣に建立されている。巡礼を終えた人たちが建立した。

## 聖山麓の他の地区にも…



一般によくみられる舟形の光背に彫られた「子安観音」。右膝を立てているものが多い。



和子安観音。高市場の像とよく似ている。



お顔にはヒゲが…

## 観音さまは男性?



観音菩薩は女性に変身して現れることもあるため、中国に伝わり次第に女性的に表現されることも多くなりました。仏教の教軌によると本来は男性です。「如意輪観音」はその優雅な姿から女性の墓石に用いられた例も多く見られます。手には何でも願いを叶える如意宝珠を持つ優雅な姿は女性と重ねられ信仰されてきました。大岡の「子安観音」も女性的でや女性や女神をイメージした信仰の足跡と言えるのかもしれませんが。

現在、形態から判っている大岡の「子安観音」石像のある地区は、高市場、和平、梨木、下大岡、近隣下中山です。崩れて形のはっきりしないものもありますが、すべて高市場の像とよく似た丸彫り。なかでも和平の石像ははっきりした彫りで、一般の子安観音のような乳も見えますので、似ていても別に造られたことも予測させます。台座の丁寧な造りなどから、もしかしたら高市場の子安像を元にして、その後各地区へ模した像が伝播した可能性も考えられるのかもしれませんが。庚申塔などには年号が刻まれているものがあるのに比較して子安観音は年号記載などが少ないようです。

## ② 西蓮寺跡

### 戦国時代の創建と伝わる

明治五年の寺院明細書記載の寺歴によると、法徳山西蓮寺は文録二年（一五九三・戦国時代）曹洞宗天宗寺二世住職により開山。同記録にはこの十年前に和平常連寺の開山もみえます。正面に位置する小松尾城の創設も戦国時代以前に遡るのではこの推測もありますが、詳しい関連は判っていません。西蓮寺跡の地続きの土地には「からほり」「うまならしば」という地名が伝わります。西蓮寺を創設した天宗寺は牧田中興禅寺七世住職が武田勝頼母の菩提のために開山したとの伝説のある寺で、室町時代から戦国時代に大岡や信州新町一帯を領した武将香坂氏が開基と伝わります。

天宗寺は江戸時代に入って幕府からじきじきに十石五斗の朱印地（年貢を免除され収納できる特権）を寄付されています（慶安二年・一六四九）。戦国から江戸時代に入り、天宗寺周囲は住民の移村など時代の波を受け大きく変化しました。けれど三末寺の一つ西蓮寺は、明治五年の寺院明細書に「十二世知道」「面積三畝十歩・檀家なし」と記載されており、戦国時代からの法灯が消えずに続いていた事がうかがえます。



堂にはゆかりの遺物。

地藏尊のほか如意輪観音がある



### ◎西蓮寺跡 六地藏とお堂



「観世音菩薩」「庚申塔」「二十三夜塔」

### ◎北小松尾石造物群

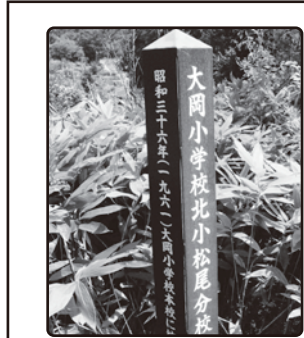
### ◎庚申塔(道祖神)



北小松尾地区では青面金剛を道祖神として祀っている。まわりに小屋がけし、正月飾りのオヤスを奉納、ミチキリのしめ縄がある。

よりみちメモ

### 北小松尾分校跡



昭和22年新学制で大岡小学校は和平・北小松尾・笹久・根越の分教場を分校としてスタートさせました。その後、北小松尾分校は昭和36年に統廃合。昭和32年資料で複式学級の児童数は32人でした。

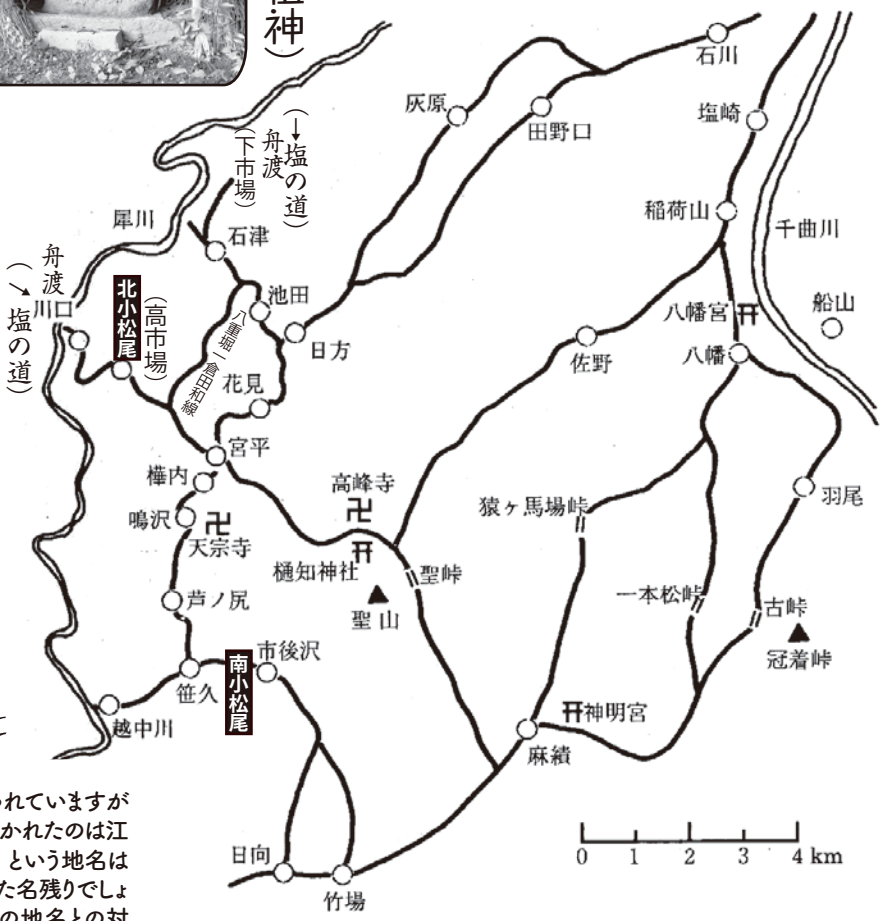


図1 大岡村周辺交通要図 (大岡村史から引用)



### 地名考 高市場と北小松尾

言伝えでは「高市場」を通る道には江戸時代以前から犀川筋から運ばれた品物を扱う「塩市」が立ち、市神さまも祀られていたと云われていますが確かなことは判っていません。隣接する宮平で市が開かれたのは江戸時代に入ってからで、高市場集落下方「茶屋畑」という地名は物資の運搬が盛んだった頃、茶屋（お休処）のあった名残りでしょうか。近隣の「下市場」大岡の西方「南小松尾」の地名との対応関係も考えられますが、こちらも確かなことは判っていません。

### 3 小松尾城跡

大岡の三つの主な城郭  
小松尾城が一番古い？  
当時は集落も城内か。

小松尾城跡は、犀川の右岸、聖山から北西に続く丘陵の末端部に尖塔のように聳える標高758mの小山。北小松尾集落の北の高台にあり、「城山」とも呼ばれます。北に続く尾根は急斜面で侵入は難しく、棚原沢に面して垂直に落ちる「屏風岩」があります。

急斜面に囲まれて聳え立つ山頂は削平され、県道からの比高は58m。この主郭の広さは南北15m、東西13mで、現在、集落との中間にあった「住吉神社」が大正頃に移され社殿が建てられています。

山頂からの北斜面には50mの堅堀が下がり、主郭の東と北には小さな腰曲輪が配されています。南東の麓には鳥居が立ち、曲輪があつて小さな池もあります。そこから東に5m下がった場所には6.5×2.4mの細長い曲輪があり、ここは「天神さま」と呼ばれています。集落の北側には「大にわ」と呼ばれる広い平地があつて根小屋の可能性があり、築城当時は現小松尾集落も城内に含まれていたと考えられます。

北小松尾集落から400m離れた南の山は「馬場」と呼ばれ、その続きに北小松尾分校跡があります。

この地は川口から大岡の中心部への道筋を押さえた地で、聖沢川を挟んだ北側は和

図5 小松尾城周辺の地名  
(久保田文登氏教示 池内朝雄作図)



●小松尾城周辺の地名には城郭に関連するとおもわれる「うわぼり」「したぼり」「うまならしば」「からぼり」などが伝わる。

現在も北小松尾集落の師岡さんが毎年のお礼取り次ぎをしている。



朝時代は南朝の後村上天皇の行宮が置かれました。大岡へ勧請された時代など詳しい経緯は判っていません。

### 住吉神社

武士に信仰された  
外交・航海の守護神  
貸人形で子宝祈願！

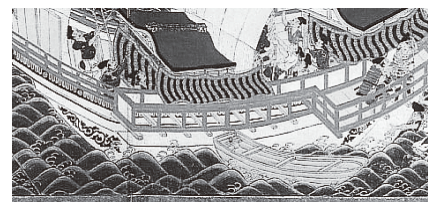
この住吉神社は遠方からも信者が訪れる子宝、安産祈願の神社で、一間社流造りの本殿両側には信者から奉納された多くの人形が並べられています。なお、一般には大阪住吉大社がその総本社。航海守護神の住吉三神と神功皇后を祀る神社で全国で二千社以上分布します。古く「住吉津すみよしのこ」はシルクロードにつながる国際港で遣隋使・遣唐使船にも使用。鎌倉時代末には住吉社造営費用獲得のため、元へ交易船が派遣されました。また、源頼朝が上洛の際、住吉大社で流鏑馬を行うなど清和源氏武士団との縁も深く、南北



城郭一帯が住吉社境内となっている。



住吉社境内からは樺内と虚空蔵山が一望できる。



大岡ではこの小松尾集落に特徴的な家のつくりがみられます。せがいつくり(船柁造り)、だしばりづくり(出梁造り)に似た伝統的な建築技法で、細い垂木でも深い軒先を確保でき、風雨や強い日差しから建物を守ってくれるものです。これらの建築物は飯田の大平宿や木曾の奈良井宿に残されて文化財として保存されています。船柁造り他県では江戸時代にぜいたくな造作とされ制限があったところもありました。小松尾集落では地元の大工さんが技をこらして造ったと伝わります。

技と知恵が伝承された  
風土にあった家づくり

### 秘境屏風岩



和田城方面から見た城山山裾と屏風岩。堅固な山城を讃える天からの采配名か。昔は川口からも入れたそう。今や熊のみが知る秘境となっています。

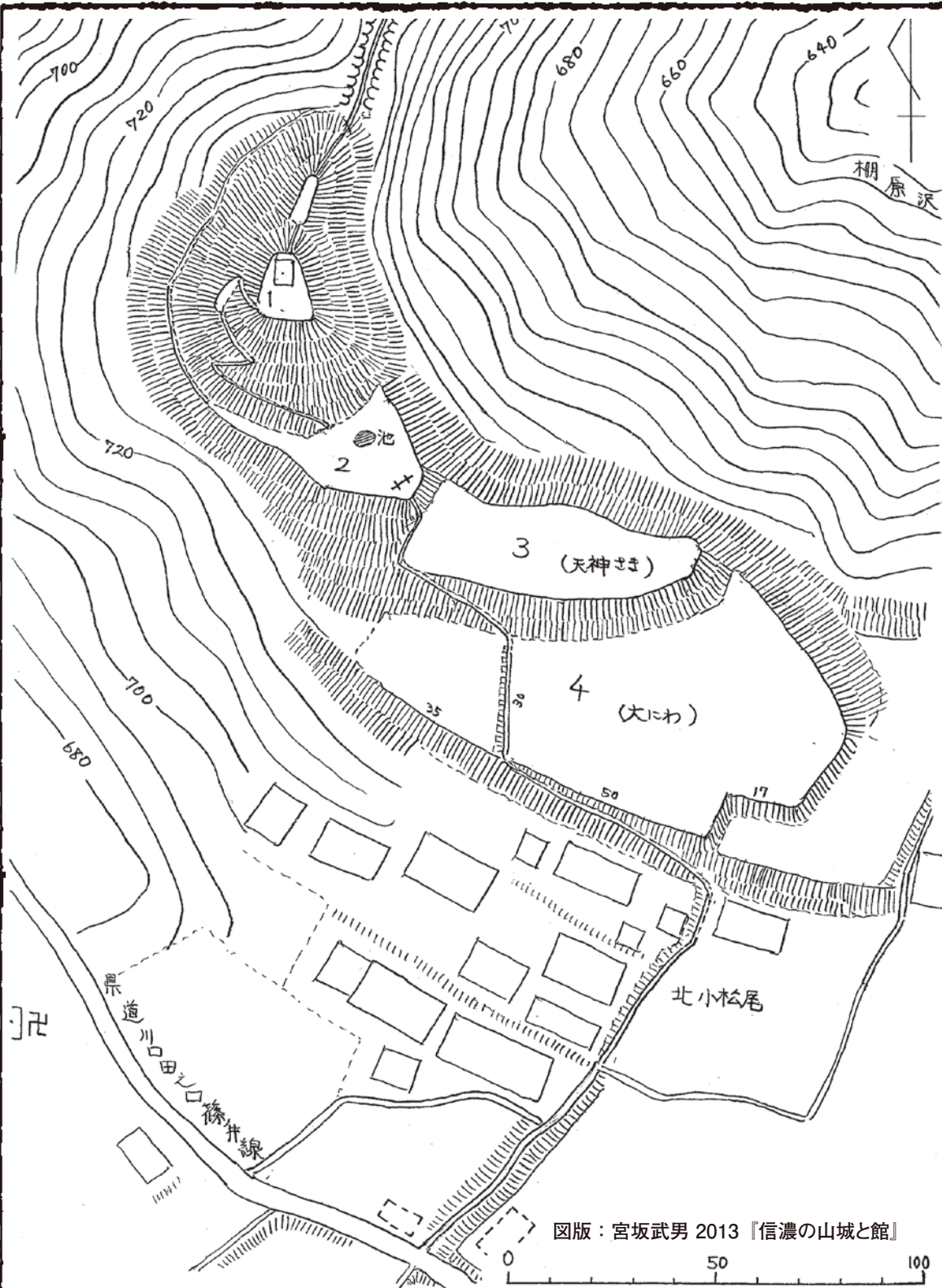


田之城があり、南西の犀川の対岸には野田山城や左右山城が見通せる場所です。この小松尾城も周辺にある大岡城、和田之城、牧ノ島城などと結ばれていたものと考えられます。

大岡村で知られている三つの城郭は、北

小松尾の小松尾城・中牧の蟻ヶ城・鳴沢の大岡城(砦山城)で、このうち小松尾城は古い時代からあったのではと考えられています。(大岡村誌) 戦国時代以前の南北朝内乱の時期に戦闘に応じた城郭が形成され、その後も室町時代から戦国時代まで使用さ

れた可能性があります。当時この地に関わりが強いと考えられるのは、香坂氏と麻績氏で、香坂氏が登場する「大塔物語」では、大岡周辺も重要な役割を荷なっていたことを思わせる記述があります。  
※根小屋 城山山麓の館を中心とした中世の集落



図版：宮坂武男 2013『信濃の山城と館』

子宝人形貸し出し中♡



## 一寸法師と住吉社

住吉社というと、白砂青松の風光明媚の代表地とされ、その絵模様は「住吉模様」と呼ばれます。紫式部『源氏物語』にも明石の君に関連した重要な舞台として描かれます。また『一寸法師』は子宝に恵まれなかった初老の夫婦が住吉大社に参り子供を出産、その子供が住吉津から細江川を下って大阪湾に出て淀川をのぼり、京都へ向うお話です。子宝祈願は社に奉納された人形を借りて持ち帰り、子宝が授かると人形を奉納、お礼参りするシステム。ご利用下さい。



頂上の住吉社の社殿内陣には、壁にびっしりと寄進者の記名奉納札が打ち付けられています。中には古いもの、遠方の信者の札もあり、住吉社信仰隆盛の一端と、書かれた地域名や職名に当時の人々の暮らしが伺えます。

住吉社奉納札にみる  
信仰の広さと  
人々の暮らしが  
伺えます

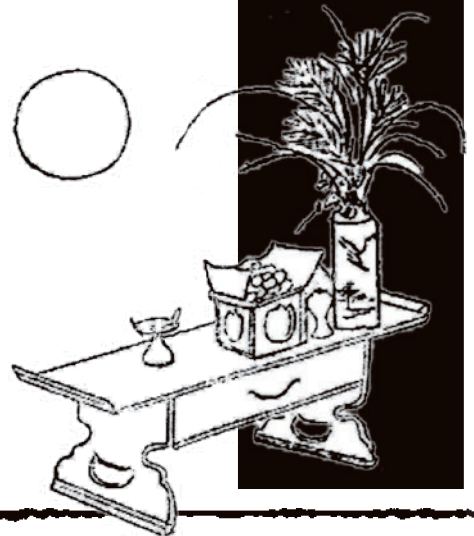
# 二十三夜塔 宮下健司

月見は古代に中国から伝わったが、貴族の間で十五夜月を鑑賞する宴が始まったのは平安前期の九世紀後半から一〇世紀初めであった。貴族たちは池や盃にうつった満月を愛でた。戦国武將は戦勝を祈願して、兜の前立に三日月をつけた。三日月はやがて満ちてくるから、望みが叶うことを願ったからである。

江戸時代になると、豊作祈願や収穫感謝の祭事が加わった月見や月侍講が生まれ、月を信仰の対象として、特定の日の月を特定の神仏に結びつけて拜むことが始まった。

第一の月見は旧暦八月十五日（今年は九月二七日）の十五夜月、中秋の名月で、「芋名月」ともいった。一晩中、満月を見ることができ、月に収穫に感謝してサトイモ、ナス、ハギ、オミナエシ、だんご二五個を供え、大日如来・聖観音に祈った。

第二の月見は旧暦九月十三日の十三夜月である。日本独自の月見で、新月から十三日の月で、十三夜月はほぼ満月の十五夜の月より、少し欠けた月となり、十五夜だけだと片見月のため、十三夜の月見をするのだという。クリや枝豆、だんご二個を供え、「豆名月」「栗名月」「後の名月」といい、



虚空蔵菩薩を拜んだ。

第三の月見が十日夜月（とおかんやつき）で、旧暦十月十日（新暦の十一月五日前後）の月で、これも日本独自の月見である。稲刈りが終わり、田の神が山に帰る時で、かかし上げをし、十日夜のねらでぼう（わらで地面をたたいて、モグラを追い払う）をした。十五夜、十三夜、十日夜には、いずれも石造物は造られなかった。それに対し、村の入り口に道祖神、庚申塔とともに立てられたのが二十三夜塔である。

二十三夜月は旧暦九月二十三日の月で、新月より二十三日日の下弦の半月である。新月の出は遅い三時ころで、二十三夜の月の出を待つて、勢至菩薩に祈る月侍で、二十三夜講（二十三夜侍・二十三夜様）といいた。この月は勢至菩薩の化身で、勢至菩薩は阿弥陀如来の脇侍で、智慧を司る仏である。二十三夜の夜に勢至菩薩を念ずれば

万却の罪が減じるとされてきた。

二十三夜には、ムラの女性が集まり、遅い月が出てくるまでの間、お茶を飲んだり、食べたりしながら月待ちをした。月が顔を出すと、子どもが授かるように、子育てがうまくいくように、子どもが元気で丈夫に育つように月を拜み、折り、お願いし、月の光を浴びてパワー、元氣をもらったのである。

子どもが生まれ、無事育つことで、子孫、ムラの繁栄を意味していた。だから、庚申塔、道祖神とともに村の入り口にこの三種の石仏が立てられたのである。

ちなみに道祖神は夫婦和合、子宝祈願、子孫繁栄の神で、庚申塔は一粒万倍を祈る作神であり、この三種の神様はムラにとって繁栄・永続性を願う最も大事な神様であった。

こうした江戸人の月見や月侍への期待感、今の電灯の明かりに馴れた現代人の生活では考えられないものである。江戸の灯火具（たんころ・あんどん・ろうそく）のあたりは電灯の二〇の明るさで、その上、菜種油・ろうそくは高価で、ろうそく二本の代金が大一日分の賃金と同じであった。夜の闇を明るくするのは、菜種油が燃え、ろうそくの火が周囲だけを照らすだけの明かりであった。それに対し、あたり一面を照らし出す月の出は、きざかし待ち達しいものだったに違いない。

## 4 上栗尾の石造物群



「聖徳太子」「二十三夜塔」「庚申塔」「馬頭観音」近くに道祖神がある。




御跡 上栗尾農村コミュニティセンター裏に卵塔、五輪塔、室町時代と思われる宝きょう印塔がある。



## 5 下栗尾の石造物群







「二十三夜塔」「筆塚」「庚申塔」「馬頭観音」近くに道祖神がある。

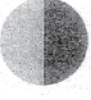
# 月の満ちかけと月待講


1日目の月  新月(しんげつ)

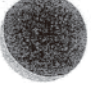
13日目の月  十三夜(じゅうさんや)  15日目の月 満月(まんげつ)

16日目の月  十六夜(いざよい)  17日目の月 立待月(たちまちづき)  
しんげつ  
新月までは、日の出のときに見える月のおよその形

18日目の月  居待月(いまちづき)  19日目の月 寝待月(ねまちづき)

23日目の月  下弦の月(かげんのつき)、  
二十三夜月(にじゅうさんやづき)

26日目の月  二十六夜月(にじゅうろくやづき)

28日目の月、29日目の月  明けの三日月(あけのみかづき)



「更級の里の月見」(善光寺道名所図会)

# 月待講と神仏

## 月待講

月を信仰の対象として、特定の日の月を特定の神仏と結びつけて拝む

- |                     |   |
|---------------------|---|
| 十三夜講 (十三夜待・十三夜様)    | 虚空藏菩薩                                       |
| 十五夜講 (十五夜待・十五夜様)    | 大日如来・聖観音など                                  |
| 十六夜講 (十六夜待・十六夜様)    | 大日如来・阿弥陀如来など                                |
| 十七夜講 (十七夜待・十七夜様)    | 千手観音・聖観音など                                  |
| 十八夜講 (十八夜待・十八夜様)    | 千手観音・聖観音など                                  |
| 十九夜講 (十九夜待・十九夜様)    | 如意輪観音・馬頭観音など                                |
| 二十夜講 (二十夜待・二十夜様)    | 如意輪観音・十一面観音など                               |
| 二十一夜講 (二十一夜待・二十一夜様) | 如意輪観音・准胝観音など                                |
| 二十二夜講 (二十二夜待・二十二夜様) | 如意輪観音                                       |
| 二十三夜講 (二十三夜待・二十三夜様) | 勢至菩薩 石造物多し                                  |
| 二十六夜講 (二十六夜待・二十六夜様) | 愛染明王 石造物やや多し<br>藍栽培者、紺屋、染物屋、<br>遊女たちの信仰を集める |

## 2015年

月	月の満ちかけの日			
1	5	13	20	27
2	4	12	19	26
3	6	14	20	27
4	4	12	19	26
5	4	11	18	26
6	3	10	16	24
7	2	9	16	24
8	7	14	23	30
9	5	13	21	28
10	5	13	21	27
11	3	12	19	26
12	3	11	19	25

この秋は夜空をみあげてみませんか？

下栗尾二十三夜塔



上栗尾二十三夜塔



北小松尾庚申塔



庚申塔や二十三夜塔は上部左右に月(左)日(右)を配したものが多く。

どんな政治家より  
お天道さまと  
お月さまへお頼み申し上げる  
のがいちばんじゃ！



北小松尾

庚申塔と青面金剛

しょうめんこんごうは庚申信仰の神体本尊。四または六臂で、手に、輪宝、鉾、羅索、蛇、弓矢、金剛杵、日月、劔などを持つ。その恐ろしい姿から、邪気や悪病を払うとされる。

# アルプスを望む日本一の風景 上栗尾～下栗尾

## 西方

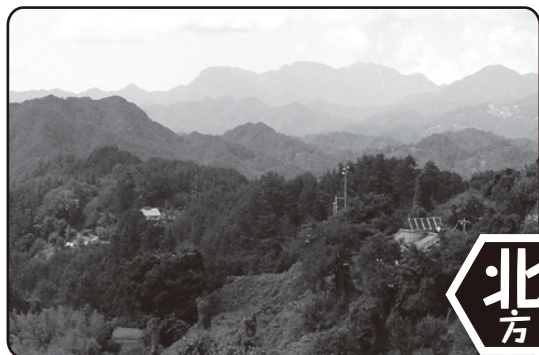
- 戸隠山
- 高妻山
- 乗鞍岳
- 小蓮華岳
- 白馬岳
- 杓子岳
- 鐘ヶ岳
- 天狗の頭白馬ヤリ
- 唐松岳
- 五竜岳
- 鹿島槍ヶ岳
- 爺ヶ岳
- 山石小屋沢岳
- 鳴沢岳
- 赤沢岳
- 針ノ木岳
- 蓮華岳
- 北岳
- 唐沢岳
- ガキのコブ
- ガキ岳
- 有明山
- 燕岳
- 天井岳
- 常念岳



上栗尾地区には寛文六年（一六六六）と明和元年（一七六四）の検地記録が残り早くから田畑の開墾が行われていたことがわかる。道路脇からセギの水音が聞こえる。

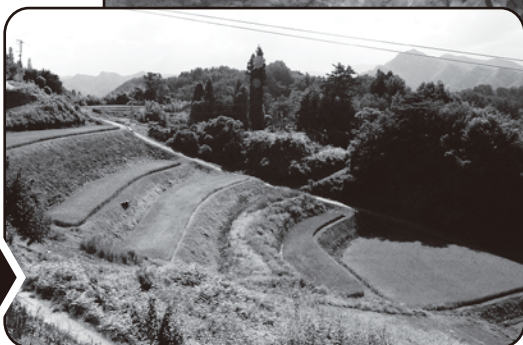


高市場から見える上栗尾集落風景。



上栗尾から北を望むと右方に大洞峠が一望。遠くの山のもうは日本海。

## 北方



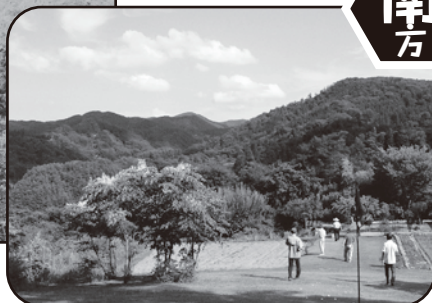
善光寺震災被害が甚大だった。アルプスを望む高台にある美しい下栗尾、その一方で弘化4年の善光寺地震で大きな崩落があり、後世まで語られる大災害となった。大岡全体で九一名が亡くなり、下栗尾村では十三人が亡くなったと記録にある。

下栗尾の棚田風景  
大岡地域の総石高は元和元年（1622）千九百石、天保五年（1834）二千九百石で松代藩領内でも石高の大きな地帯だった。



棚原からは東面に犀川沿いの信州新町から七二会の陣場平までがはっきりと見える。

## 南方



広々とした棚原の奥の原。大岡で一番早く朝日が昇るともいわれます。



上栗尾の神楽は現在長野市の民俗資料となっている。



最近では使われていない巨大な御祭禮と書かれたのぼり旗。

## 東方



棚原のテーテルボー  
棚原では（女の神様なので）どんと焼きをせず道祖神の横に指しておき5月末の味噌づくりの豆煮のたきつけにする。



### 秋葉社

棚原入り口の「秋葉社」の石祠。初なりのキュウリを供えるという。元禄七年（1694）の銘がある。



### 天王社

### 御堂跡

尼僧さんの墓が二基あり、今も大切に杉の囲いのなかに守られている。



中央「天王社」石祠。「すさのうのみこと」ともいう。左は庚申塔で「猿が彫られている。」

## 下栗尾・棚原の石造物



集落入口に庚申塔。